

1. 大阪府泉大津市：市町村広域災害ネットワーク協定について

概要：面積 13.36 km²。人口 76,288 人

他市との相互支援体制（近隣市だけでなく環境の違う遠方の市とも協定を結ぶ）・災害時の初期対応強化の為のスケジュールづくり（カウンターパート等）・備蓄品の相互補完等について学ばせて頂きました。

そして、顔の見える協定を目指さなければ意味がないというスタートなので、理解も深まり、継続が可能になっているとのこと。

市町村が相互協定を結ぶことは、同時被災も視野に入れ、相互に足りないもの・足りているものも考え、市の抱える問題解決の為に、真剣に取り組んでいる姿勢に感銘を受けました。

2. 和歌山市みんなでとりくむ災害対策基本条例

概要：面積 210.31 km²・人口 363,610 人

基本条例づくりにおいては、災害時に市民の皆さんを守ることを第一の目的であることを踏まえ、市民・事業者・行政・議会それぞれが、災害対策における責務や役割を明らかにし、自助・共助は『ですます調（市民目線）』で表現し、公助は『である調（市に対する縛り）』し、特記事項としては、状況の変化に対応し、風化防止に努める為に2年ごとの見直し条項の記載をしたとのこと。

細部に亘り、丁寧に作り込まれている様子をお聞きすることができました。

3. 神戸市の防災対策・危機管理室・避難計画づくり「地域津波防災計画の作成支援」・神戸市津波防災ウェブサービス「ココクル」について

概要：面積 552.83 km²・人口：1,538,047 人・基本理念：世界とふれあう市民創造都市
神戸淡路大震災（20年前）の震災を生かし策定している『地域津波防災計画』とウェブサイト『ココクル』（グーグルマップで、津波情報等を提供するサイト）やライン・Facebook と立ち上げ、人材づくりのバックアップにもなるように取り組んでいるとのこと。

今回の行政視察をし、市原市に合った防災の体制は、何なのかを考えさせられるいい機会でした。

市それぞれの歴史により街の構造や基盤が違い、地震を体験した街や地盤の構造の違いがあっても、できることはたくさんあり、また継続の対説さを実感できました。